



脚本・絵 きやくほん え

わたなべ しおん

トマ太郎の にっそうよく

①

演出ノート えんしゅつ



②

「ぼくはトマト。」

トマタろうつていうんだ！

ぼくは成長せいちようがおそいから

みんなとちがって体からだがまだ青あおいんだ。

ぼくたちトマトは 赤あかく大おおきな体からだに

なったら収穫しゆうかくしてもらえる。

だからぼくもはやく真まっ赤かになりたい！」

そう思おもっていた次つぎの日ひ！。

―ぬきながら―

「うわー！ トマトちゃん！」

元げん気きに

力ちから強いく

大おおきな声こゑでさげぶ



③

トマたろうの隣となりにいたトマトちゃんが
収穫しゅうかくされていきました。

トマたろうは、ずっと隣となりにいたなかよしの
トマトちゃんがいなくなつて
とてもさみしくなりました。

それと同時に、収穫しゅうかくしてもらえたトマト
ちゃんがうらやましかつたのです。

「よし！
ぼくもトマトちゃんみたいに
はやく赤あかくなつて収穫しゅうかくしてもらおうぞ！
そのためには、太陽たいようの光ひかりをたくさん
浴あびるんだ！そしたら赤あかくなれる！」

ところが……

—ぬく—

気合きあいをいれるように

問まをあける



④

ザア——！

雨が降ってきたのです。

次の日も その次の日も 雨はやみません。

今は6月。そう、梅雨の季節です。

トマトは雨にたくさんあたると
割れてしまいます。

それから何日も雨が降り続き、

雨が大嫌いなトマタろうは……。

——ぬく——

間をあける

ナレーション
ゆっくりはつきりと



⑤

ブルブルブル

「うう、さむいよー、さむいよー」

寒^{さむ}さに震^{ふる}えていました。

「どうしよう、このままだと風邪^{かぜ}をひいちゃう」

すると次^{つぎ}の瞬間^{しゅんかん}—。

はっ はっ はっ

—ぬく—

震^{ふる}えるように

落^おち込^こむ

くしゃみ
はっきりと大きな声で



⑥

はつくしよん!!

トマたろうがくしやみをしました。

風邪^{かぜ}をひいてしまったのです。

—ぬく—

大きな声^{おおいこえ}で



⑦

「どうしよう。」

このままだったらぼく、赤くなれない、
枯れちゃう。

やだやだ、枯れたくないよ〜」

トマたろうは泣きだしました。

それでもまだまだ雨はやみません。

「やっぱりぼく、枯れちゃうのかな、
赤くなれないのかな。」

トマたろうが諦めかけていたそのとき

ピチャ。ピチャ。ピチャ。ピチャ

足音が近づいてきました。

「あっ！ ゆうたくんだ！」

かなしそうに

かなしそうに

びっくりするくらいに

—ぬく—



⑧

いつもトマたろうの横よこを通とおって幼稚園ようちえんに通かよっているゆうたくんがトマたろうに傘かさをさしてくれたのです。

トマたろうはゆうたくんの優やさしさに心こころが温あたたかくなりとてもうれしく思おもいました。

「これで雨あめにあたらな！ たすかった！ ゆうたくん、ありがとう！」

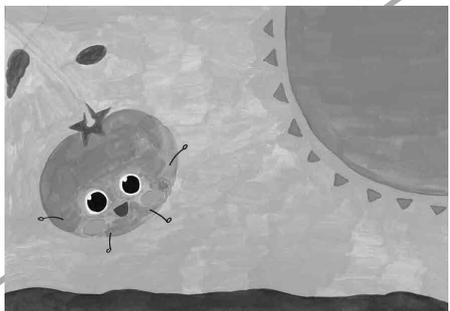
それから何日なんにちか過ぎすぎ、

— 線せんまでぬく —

ついに晴はれました。

ひさしぶりに太陽たいようを見みたトマたろうは大喜およろこびしました。

— 残のこりをぬく —



9

「わーい！わーい！太陽だ！
あったかい！」

「よし！
これでたくさん太陽の光を浴びてぼくも赤
くなるんだ！」

その次の日からトマたろうは……。

うれしそうに



⑩

太陽たいようの下したで日光浴にっこうよくをしました。

「あつたかくて気持ちきもちいい〜！

これでたくさん光ひかりを浴あびれば

ぼくもみんなみたいに真まっ赤かになれる！

それでおいしくなれる！

そうすれば収穫しゆわくしてもらえるんだ！

たのしみだな〜」

それからトマたろうは

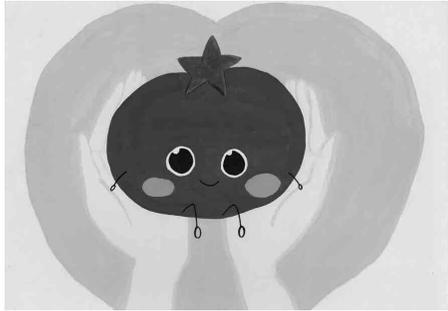
太陽たいようがでるたびに日光浴にっこうよくをし続つづけました。

その結果けっか——。

—ぬく—

たのしそうに

わくわくしながら



⑪

真まっ赤かな大おおきいトマトに成せい長ちようしました。

「みてみて！」

ほほく、真まっ赤かになつたよ！

大おおきく成せい長ちようできたよ！

どうかな？」

うれしそうに

トマたろうを抱だきあげたゆうたくんは
にこにこつつと笑わらい、
うれしそうにトマたろうをお家うちに連つれて帰かえ
りました。

そのあとトマたろうは——。

—ぬく—



⑫

なかまのおやさいさんたちと一緒に
サラダになりました。

「ゆうたくん！」

トマトは太陽の光をたくさん浴びると、
その分あまくなるんだ！

だから、太陽の光をたくさん浴びたぼくは
すっごくあまいんだよ！

さあ、はやく食べてはやく食べてー！！

トマトろうはゆうたくんに食べてもらえる
ことを幸せに思いました。

「ママ！このトマトあまくておいしい！」

ゆうたくんがさげびました。

「ぼく、トマトだいすき♡」

ゆっくりはっきりと

おしまい

大きな声で